

氏名	本 条 征 史
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 857 号
学位授与の日付	昭和52年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	高血圧性脳内出血の外科的治療に関する実験的研究 — 組織化学的研究 —
論文審査委員	教授 田中早苗 教授 寺本 滋 教授 大月三郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Goldblatt変法により作成した実験的腎性高血圧家兎に対し、これを Pyridinol-carbamate 30/mg/kg/day投与群と非投与群の2群に分け、そのそれぞれに両側腎動脈狭窄後6週目に、内包附近に自家凝血0.3mlを注入し脳出血家兎を作成し、3日後に屠殺した血腫群と、3日後に血腫を吸引除去しさらに3日後に屠殺した血腫除去群について、その剔出脳を主として組織化学的に検討した。その結果、血腫脳については投与群・非投与群ともに好氣的解糖系、嫌氣的解糖系および水解酵素系の酵素活性の低下が認められ、代謝の広汎な抑制、神経細胞機能の衰退、組織呼吸の障害がうかがわれた。一方、大脳皮質において5炭糖回路系の酵素活性の上昇がみられ、病的条件下でのこの回路の代謝特異性が推測された。血腫除去脳については、非投与群では解糖系酵素、水解酵素系酵素は尚活性低下を示したが、Cy-O活性は上昇し、呼吸機能の改善の傾向がみられた。さらに投与群では、酵素活性はほぼ正常に近く復帰しており、血腫除去の効果と同時に血管病変の抑止の重要性を示唆した。血腫除去は以上の如く神経細胞の呼吸機能の改善に有用であると思われる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

高血圧性脳内出血の外科的治療に関する実験的研究であり、従来、本疾患に対する外科的手術の適応について一定の見解がえられていなかったが、本研究者は手術的療法にPyridinol-carbamateを併用することによって好結果をきたすことを、組織化学的に解明し、本疾患の治療に貢献した点において、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。